



いずみ

令和7年11月28日発行

<学校教育目標>
自ら行動する子
かかわり合い、
よりよい自分を
目指す子

学校HP



(Tel) 3480-3881 (Fax) 5497-7358 (HP) <http://www.komae.ed.jp/e/izumi/>

校長 鷲見 真太郎

今年度の教育活動のさらに先へ

校長 鷲見 真太郎

令和7年9月25日、中央教育審議会の教育課程企画特別部会より、次期学習指導要領作成に向けた議論の論点整理が示されました。この中では、今後の教育において押さえるべき要点が120ページ近い分量で列挙されています。その基本的な考え方の冒頭部には「生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる、民主的で持続可能な社会の創り手を『みんな』で育む」と記されています。

この冒頭部に限らず内容部分に示されているかなりの要素が、これまでお伝えしてきた本校の取組と重なり、我々が目指しているものを文部科学省も後押ししてくれているのだと心強く感じています。運動会や学習発表会などの学校行事を子供たちが創造する活動としていることや、児童運営委員会による学校運営、子供たちの初発の思考や行動を起こす力・好奇心を出発点にした、他者との対話や協働を通じた、主体的かつ調整された学び（本校においては「問い」をもった学びと定義）、校内サードプレイスを新設することでの多様性の包摂など、年度当初にお示ししました学校経営方針の柱の全てが重なっています。総合的な学習の時間として、第3学年では金融教育や多摩川学習、第4学年ではごみの学習を基盤にした探究学習、第5学年では起業家教育、第6学年では落語教育や自分探しの学習など、探究活動なども同様です。

今後は、令和8年度の教育課程編成に向けた検討を、学校全体で進めていきます。先日も本校が大切にしている主体性について、教職員全員で追究すべく、哲学対話の手法を用いて改めて議論しました。それをもとに、今年度まで進めてきた校内研究の第2章をどのように進めていくのか、子供たちの主体性をさらに伸ばすための活躍の場をどのように創出し、学校の組織や仕組みをどう変えるか、学校が全員にとっての居場所となるためにサードプレイスをどのように発展させていくか、等々、教職員全員と学校運営協議会、その他ご協力いただける地域の皆様と協働して、さらに前進していきます。

学校だより3月号の本欄にて、ご報告させていただきますので、ご理解ご協力いただけましたら幸いです。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

12月の安全指導

火遊びをしない・冬休みの過ごし方

○令和6年の火災件数は約4500件でした。軽い気持ちの行動が大きな火災へとつながります。安全で楽しい冬休みになるよう冬休みの過ごし方とともに、火の扱いについてご家庭でも話してください。